

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

# おひさまだより

発行 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会 2009年9月 vol.18

## 8月21日(金)22(土)麻生区役所ロビーにて 住宅用太陽光発電システム 設置相談会を開催

目次	
太陽光発電設置相談会	1
おひさまと遊ぼう	2
CCかわさき環境ミーティング	2-3
太陽と遊ぼう	3
施設見学会募集	4

当実行委員会は自然エネルギーの活用促進をはかるため、自宅に太陽光発電システムの設置を考えている区民を対象に「太陽光発電の基礎知識や国および県・市の補助制度、設置費、工事期間、メーカー、工事業者など全般」の相談に応じました。(尚、希望があれば区役所屋上の5kW太陽光発電の見学も)。「市政だより」を見た方や区役所へ来られた方など、合計で11名が相談に見えました。

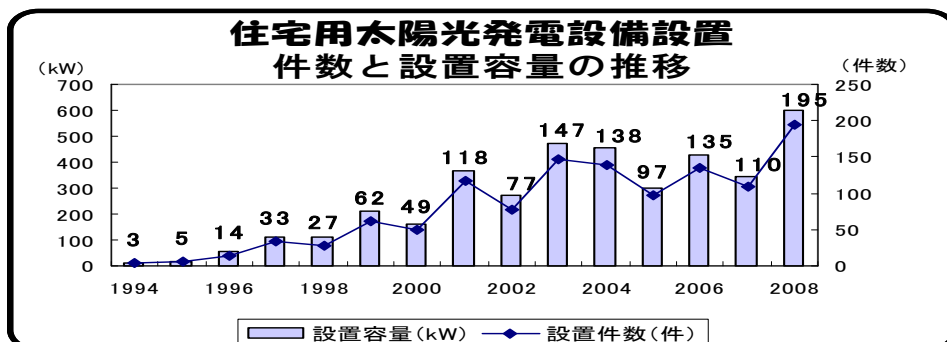
2009年度から市の補助だけでなく国・県からも補助金が交付されます。更に電力会社による太陽光発電の余剰電力の買い取りは、従来(約24円/kWh)の約2倍の価格で10年間購入する「固定価格買取制度」導入がほぼ決まり、2009年末より実施予定です。

これらにより設置費用の回収は従来20~30年以上でしたが10~15年に短縮できる見込みです。このため応募者が多く川崎市(県も含む)の2009年の補助金申請受付枠300件は既に満杯。さらに300件追加募集を検討中です。

今回、実行委員会として初めて相談会を実施しましたが、今後の相談窓口をどのような形で開設するか検討していきます。皆さんの御意見をお寄せ下さい。(伊藤清美 記)



川崎市の設置件数と容量の推移 (川崎市環境局資料)



## 「2009 おひさまと遊ぼう」を開催 7月4日（土）

梅雨の合間の晴れた日、新百合ヶ丘駅南口ペデストリアンデッキで昨年に続き、2回目のイベントが開かれました。実行委員のみんなの心も晴れ晴れです。車で銀行の裏に運んだ器材を、会場のペデストリアンデッキに各自手に持って運ぶのですが、重いおひさまエネルギーボックスを運ぶのは大変でした。各担当の準備をして、黄色いおひさまと遊ぼうののぼりが並んで開会です。

イルミネーションも点滅し、ソーラーおもちゃも動いています。ソーラーカー、手回し発電機は子ども達に人気があります。ハンドマイクでPRしている伊藤さんは、説明パネルの前に立ち寄る人が多く大忙しです。クイズも待つ人が出る程の人出があって、担当者の声がガラガラです。PRをしていた樋口さんとクイズの担当を交替して、ハンドマイクでPRをしました。「私達は麻生区役所・自然エネルギー活用促進事業実行委員会のメンバーです」と言う区役所と言うことで信用があるのでしょうか、大勢の人が寄ってきます。終わる頃に沢山の人が通行し始めていましたので、もう少し時間があっても良いのかなと思いました。

進行している地球温暖化の事、それを防止するため自然エネルギーの事、特に太陽エネルギーの事を老若男女、不特定多数の方に知ってもらえる事が出来ました。その一人一人に何が出来るのかを考え、実行して欲しいと思いました。  
(宮河悦子 記)



## CC かわさき環境ミーティングに参加 (新百合21ホールで)

深刻化する地球環境問題を解決しようと各国が政策を打ち出す中、川崎市では「カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略（CCかわさき）」を推進しています。その一貫として、7月4日（新百合21ホール）、8日（中原市民館）、10日（川崎市産業振興会館）の3日間「CCかわさき環境ミーティング」を開催しました。

当委員会は、チラシを配って参加呼びかけをすると共に、新百合21ホールで開かれた7月4日（土）15:00～17:00に、ソーラークッカーとパネルの展示をして協力しました。

会議ではまず阿部市長から 以下3点について説明がありました。

- ・地球温暖化対策をめぐる国内外の動向と川崎市の現状—川崎市の温室効果ガス排出量は産業系が約8割を占めている。1990年比で、2007年に10.1%削減を達成した。しかし家庭と業務部門が上昇していて、対策が必要である。
- ・CCかわさきの取組—基本的考え方は、「環境」と「経済」の調和と好循環を推進し、持続可能な社会を地球規模で実現するため、全市を挙げて取り組む。そのひとつとして市民・事業者によるCC川崎エコ会議を2008年7月に発足した。
- ・地球温暖化対策条例の制定にむけて—
 

1) 地球温暖化対策に係わる計画の策定、	2) & 3) 事業活動や開発行為等における温暖化対策、
4) 再生可能エネルギーの利用、	5) 運輸・交通における温暖化対策、
6) 優れた環境技術による国際貢献、	7) 日常生活、
8) 環境教育	
9) 緑の保全、	10) 循環型社会、
11) 組織整備、	
12) 表彰制度	を主な柱として現在、環境審議会に取りまとめ中である。

次に、コーディネーター・末吉竹二郎氏（川崎市国際環境施策参与）の紹介で、下記パネラーの取組説明があり、意見交換がなされました。

- ・東京電力・廣瀬直己氏：メガソーラー（浮島、扇島に2万kWの太陽光発電所）建設計画などを企業として推進しています。
- ・小田急電鉄・小柳淳氏：省エネ車両の導入から小田急グループ各社の余剰食品を液状飼料にし、その飼料で飼育した豚を出荷する食品のリサイクル事業、レジ袋有料化など積極的に取りくんでいます。
- ・麻生区在住・上智大学大学院教授・柳下正治氏：川崎市環境審議会温暖化対策特別部会長という立場から条例策定に向けての話でしたが、対策の主役は市民であり、市民による積極的な議論が必要と訴えました。

最後に末吉氏が、「将来、孫たちに『あの時どうして動いてくれなかったの？』と言われる状況になるか、『あの時、動いてくれてありがとう。』と感謝されるか、今の我々の動きにかかっている。」とまとめられました。

時間が足りなく、会場からの質問は文書提出、回答は後日ホームページ掲載という形式になり、直接市民との意見交換はありませんでした。「市長が各地域に出向き、市民・事業者とじかに意見交換するミーティング」というよりは、「市や事業者の取組を一方向的にアピールする報告会」と感じたのは、私だけの見方でしょうか？行政や事業者の方々に比べ、一般市民の参加が少なかったようにも思え、来年こそは市民が主役の本来のミーティングになるよう働きかけ、一緒に作り上げていく必要性を感じました。（天野悦子 記）

## 第9回「太陽と遊ぼう」（7月26日）に参加

川崎市地球温暖化対策推進会議ソーラーチーム主催の「太陽と遊ぼう」は東高根森林公園で行われました。自然エネルギー活用促進事業実行委員会から7名が参加、ソーラークッカーのお手伝いをしました。

ソーラークッカーの準備にとりかかり、きらぴか3台、サンオープン2台、吉田実行委員お手製のオープン1台を設置しました。調理は、竹の子とキノコの炊き込みご飯、ホットケーキ、ゆで卵、新さつまいも焼き、ジャガイモのチーズ焼き、カボチャ、ナスとピーマンのチーズ焼きなど。

お天気に恵まれ調理時間が早いため、当初予定していた材料では足りず、急遽となりのフリーマーケットで地場産野菜のジャガイモ、カボチャ、ナスを調達しました。そして、生産者の方にも調理したものを試食して頂きました。取れたてをその場で調理して食べる！この上ないぜいたく！ですよ。おいしさは、なおさらのようでした。

若いお父さんやお母さんが子供さんに「ホラ、太陽の光で料理ができるのよ！」「すごいね！」など会話が弾みます。試食してくださいと呼びかけると「あっ！おいしい！」

太陽の光で調理できることを不思議に感じたようで、熱いのか？ 恐る恐るきらぴかの反射板をさわる人もいました。反射板は熱くなるのではなく、光をお鍋に集める役目をするのよ「うーん！！」多くの方が太陽の光のエネルギーに関心を持って頂けたのでは？ と思いました。

題名通り、またとないような快晴に恵まれ、キラキラの太陽と大いに遊んだ一日でした。

いや～あ！！本当に暑かったです！！（吉松富壽子 記）



（写真の提供はソーラーチーム）

## 2009 あさお自然エネルギー学校に皆様のご参加をお待ちしています

連続講座第2回は10月3日(土) 13:30~16:00

「緑を生かした住まいづくり」(株)チームネット 甲斐 徹郎氏

連続講座第3回は10月31日(土) 13:00~16:00

「世界の対策・日本の対策」 ~地域温暖化防止をめぐる

NPO 気候ネットワーク 平田 <sup>きみこ</sup> 仁子氏

連続講座第4回 ; 11月26日(木) 8:00~17:00

### 自然エネルギー活用施設見学会の見どころ紹介

経産省・NEDO「新エネ百選」選定エコ住宅は茨城県古河市にある以下の施設を見学します。

- I 積水ハウス(株)のゼロエミッションハウスは、建設時、生活時、解体時などのライフサイクルを通じて、排出するCO<sub>2</sub>量と、家庭で創る自然エネルギー発電によるCO<sub>2</sub>削減量を同量にしたモデルハウスです。昨年7月洞爺湖サミットで展示され、世界に発信されたものです。
- II 資源循環センターは、積水ハウスの建設(新築、リフォーム、メンテナンス)現場で出る廃材を22種類に分別回収し、最大80品目に分け100%再資源化を図っている工場です。
- III 住まい環境館は、省エネ、節水、次世代燃料などをうまく組み合わせた、環境に優しい住まいを具体的にみる事が出来ます。
- IV 積水ハウス「住まいの夢工場」は、他に13棟の住宅が展示されていますが、時間の関係でその内の一部の見学となります。  
申込み・問い合わせは電話かファックスで麻生区役所地域振興課へ下記の番号で。 (矢澤耕一 記)

## 編集後記

編集をやっていて、気になるのは、自然エネルギーの買取の時期や価格とか、温暖化ガス削減の動向です。日本は京都議定書で、2012年までに-6%を約束していますが、昨年実績は+6%超で、国際会議でその姿勢に何度か環境NGOから“化石賞”が与えられて来ました。

2013年~20年の国別目標を決めるコペンハーゲンでのCOP15への政府案が6月に2005年比-15%(1990年比-8%)との発表に対して、またまた「ブッシュ・麻生」などと揶揄され、12月の会議での“化石賞”最有力候補と見なされていました。今回、次期首相の鳩山さんが1990年比-25%を表明されました。これでやっと欧州連合と肩を並べ、途上国にも顔向けが出来ます。-30%を求めたグループや逆に高すぎるとご不満な方達もいらっしゃるでしょうが、とりあえず貿易立国としての立場、技術を誇る人々の面目を守り、努力工夫によって超過達成の意気込みを示して欲しい。これで若者達への励ましともしたいですね。

9月12日付の朝日新聞に、世界のノーベル賞受賞者が政治指導者に対して温暖化対策強化を求める文書に「90年比25~40%減」で合意するように促しています。日本人では利根川進、白川秀樹、野依良治、小柴昌俊、益川俊英の5名が署名していると報道しています。(児嶋 脩記)

発行	: 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会 (委員長 飯田和子)
編集担当	: 児嶋・瀨瀬・河野・伊藤
問い合わせ先	: 麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺 1-5-1 Tel044-965-5116 Fax 044-965-5201
発行日	: 2009年 9月15日